

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

中信高校安全登山研究会・・・冬の検討会

11月30日に中信安全登山研究会が行われた。この会は、中信地区の高校の学校登山、各校山岳部のこれまでの活動の総括・交流と冬山の検討をするために開かれるわけだが、忙しい方が多かったせいだろうか？出席者が少ない中での開催となってしまった。

会議のメインとなる冬山の検討については、この段階で具体的な山行を予定しているところが池工だけだった。小生自身、10年ぶりに全日に移り、赴任以来山岳部の活動を一から組み立てている。そんな状況下で、冬の活動についても、「毎月一度は山行をしよう」という基本方針のもとに、不十分ながら現段階で立てうる計画を持って出席した。

現実問題として高校山岳部の活動としては、なかなか冬の山へ行くことが難しくなっているのが、現状であるが、先に書いたように、小生自身が赴任一年目ということや冬山で指導をできる顧問が一名であるということもあり、いきなり冬の北アルプスへ行くというわけにもいかない。そこで、今年度は12月に、日帰りで里山である戸谷峰・三才山で雪と寒さに慣れさせ、2月には上高地で雪の世界の美しさと厳しさをテント生活をする中で体験させ、スキーにも何回か連れて行った上で、3月春休みには、乗鞍で雪洞生活や山スキーまたスノーシューをさせたいと考えた。未だアバウトなものではあったがこれらの計画について検討してもらった。

12月の山行については、ほかに金松寺山から天狗岩、京ヶ倉と大城なども候補として考えたが、中信地区で大北地区以外のいわゆる前山であれば12月であっても登れる山は探せば結構あるものだという事を提起することができた。2月の上高地については、大町北の今滝さんからは、生徒の装備について、西牧さんからは釜トンネルから先の公園線の雪崩について注意をというアドバイスがあった。生徒にいきなり、最新の冬山装備を揃えろとは言いがたい。かといって貧弱な装備では、楽しめるものも楽しめないばかりか、時には生死に直結することも考えられる。私の手持ちのものを貸与したりしながら、不十分な点は補わねばならないだろう。いずれにせよ、二人の意見は貴重であった。肝に銘じた上で参考にしたい。なお、いつも言っていることだが、近在の学校で、都合があうところがあれば、一緒に活動できればという思いもあってここで紹介した。もし、そんな希望があればご一報いただきたい。上高地と乗鞍の細案はこれから立てるので調整は可能だ。

八方尾根合宿登山

ふもとから見る後立山はだいぶ白い雪をまとった。そんな北アルプス八方尾根で11、12の両日、信高山岳会が主体となって進めている来年度の崑崙山脈のアクサイ峰（6770m、未踏）遠征隊の第1回の合宿を行った。集まったメンバーは現段階で遠征隊のメンバーに内定している5名。

日本海側を爆弾低気圧になりそうな低気圧の通過する中での合宿となってしまったため、当初予定していた唐松岳へ登ることは叶わなかったが、初日は、冬山にむけて雪訓

と積雪観察会を行っていたグループドモレーヌのメンバーに合流させていただいて、雪崩についての学習を深め、テントの中では遠征計画書の第1次案の検討と、隊員相互の意思疎通を行なった。言い古された言葉であるが、「同じ釜の飯」を食べることによって、来年に向けて一歩前進した。2日目は、スキー場の上部斜面を使つてのロープワークと危急時への対応などの一連の流れの確認などを行った。悪天の中の合宿ではあったが、それなりに成果のある合宿となった。今後も訓練を重ね、来年の成功に繋げたい。

池工山岳部の12月山行

12月18日は、今号冒頭にも書いた池工山岳部の12月山行を実施した。日帰りで松本市の東部にある戸谷峰、六人坊、三才山、三才山峠、烏帽子岩を巡る周回コースを、生徒2人と歩いて来た。このコースは昨年「中信地区登山技術研修交流会」で辿ったコースである。我が家から最も手近に登れる山で、天気がよければ展望もいいため、私のお気に入りの山の一つでもある。8時、野間沢の登山口にとりつき、歩き出してすぐに斜面に「黒いモノ」がいるのに気がついた。カモシカである。親子連れだろうか、2頭は距離を保ちながら、暫くこちらを警戒していたが、カメラの音と光に反応してやがて斜面を駆け上っていった。このメンバーで10月に鹿島槍に登ったときにはライチョウを見た。野生動物と出会う機会の多い連中である。最もこの山は里に近い割に動物が多いのも特徴で、僕もこれまでニホンジカ、カモシカを何度も見かけている。

このコースは、2本の送電線が走りその監視道があるが、地図にはその道の記載がない。その意味では読図トレーニングには最適である。10時、コース上最初のピークである戸谷峰着。この山頂は晴れていれば、北アルプスのパノラマが展開されるのだが、生憎、期待した眺望は得られなかった。北はどんより、それでも上空から南の方は青空が広がるという、冬型の気圧配置による松本地方の典型的な天気である。そんな松本平の天気に誘われてか、山頂で一本立てていると、地元の人が2名登って来た。

戸谷峰から三才山まではほぼ稜線上を進むが、生徒にルートファインディングをさせ、じっくり読図をしながら、登っていった。今回は、読図に加え、雪上歩行、耐寒の3点を目的としたが、期待した雪は殆どなく北斜面に僅かにへばりついている程度で、後段の目的は空振りに終わり、その点は残念だった。さて、六人坊手前で、野村君が「こんなところにこんなものが・・・。」と古い空き缶を手にした。「どうするの？」という同行の藤田Tの一言に「持ち下ろします」と彼は、さっと出したゴミ袋に入れた。その後も、散見するゴミを自主的に拾う山口君と野村君の姿に、僕はかなり感動したのである。

六人坊を経て三才山に登り、そこから三才山峠に下ったのが13時15分。大休止をとる。小雪が舞う中ではあったが、持ち上げたラーメンを作って食べ、身体を温めた後、しばらくは林道を進む。1.3kmほど進んだ所から再び山道に戻り、烏帽子岩を経由して下山した。前回(11月)の大川入山での登山以来、生徒が読図の面白さに気づき始めているのが嬉しい。コンパスで角度を出すことなどを億劫がらず、地図と地形を照合しては、当たり前ながらその一致に感動している。15時、登山道から畑の中の道に出ると、動物除けのネットにまだ小さいカモシカが、首を絡ませて抜け出せなくなったまま目も開けたまま、泡を吹いて死んでいた。死後何日も経過していないのだろう。15時30分、駐車場着。私としては雪こそなかったものの、しっかり読図もでき、ゴミを拾う生徒の姿に感動させられるなど、生徒の新たな面をみることでできた山行であった。